

YOUTH LEADER

YOUTH LEADER

ー 入会のご案内 ー
当協会は、協会の活動にご賛同いただく皆様からの
ご支援で運営されています

【会員資格】 当協会の活動にご賛同いただける方でしたら、どなたでもご入会いただけます。

[法人会員] 600,000円(年間) [個人会員] 一口5,000円 ※一口以上(年間)

*法人の方は、所得控除の適用となります(非課税扱い)。

*個人の方は、所得控除・税額控除のいずれかを適用できます。

ご入会希望の方は下記までお問合せください

当協会の
ホームページ
はこちら



CONTENTS



- | | | |
|------------------------|-------------------|--------------|
| P.02-03 50周年を迎えて | P.05-13 50年の歩み | P.17 堀添勝身さん |
| P.04 VISION for NEXT50 | P.14-16 《資料編》歴代役員 | P.18-19 設立前史 |

2019 春号

- | | | |
|-----------------------------|---------------------------|-----------------------|
| P.20-24 平成30年度(2018) 下期活動報告 | P.26-28 受賞者スピーチ | P.30 報告-3 さくらサイエンスプラン |
| P.25 報告-1 第10回若者力大賞表彰式 | P.29 報告-2 2019春GET(タイコース) | P.31 報告-4 ASEANとの交流 |

50周年を迎えて



公益財団法人
日本ユースリーダー協会
評議員会会長

三村 明夫

2019年。平成から「令和」という新しい時代に向かって歩み出す御代替がわりの良き年に、当協会がちょうど50年の節目を迎えることを、ともに心から慶びたいと思います。

わが国には、創業100年以上の長寿企業が約5万社ありますが、いずれも大変な叡智と努力でそれぞれの時代の変化を乗り越えてきたはずであります。同様に、我々もここで立ち止まることなく、明日に向かって次の歩みを進めなければいけません。

現代はグローバル化の進展により、世界の動き一つ一つが相互に敏感に影響しあう時代です。若者を取り巻く環境もまた同様であり、国境を越えてともに働き、ともに暮らし、ともに学びあう時代となっています。その意味で次の世代には、視野の広い柔軟な対応力がこれまで以上に求められていると言えます。

一方で、時代や国が違っても、変わらないのは、「若者は国の宝」であること。私たち大人には、日本や世界の将来を支える彼らの活躍と挑戦を応援し、後押しする責務があります。皆様からの引き続きのご理解とご支援を、切にお願い申し上げる次第です。



公益財団法人
日本ユースリーダー協会
代表理事(理事長)

井上 義郎

1969年。人類が初めて月に降り立ち、若者たちの挑戦が世界中に新しい息吹を感じさせてくれたこの年に、当協会は誕生いたしました。設立当初は、働く若者世代の労働環境の改善に取り組み、のちに福祉法の制定にこぎつけるなど、協会自体が若者力あふれる活動に汗を流していた時代でした。

その後、外交政策の一つとしてわが国が、途上国への開発支援活動を積極化するに合わせて、当協会は東南アジアとの交流・研修支援活動に取り組み、爾来、30余年にわたる活動の軌跡が、いま、東南アジア10か国と日本をつなぐネットワークとして見事に花を開いています。(日本-ASEAN友好団体：AJAFA-21)

世界を結ぶのは国であり、国を結ぶのは人であります。国を超えた人ととの信頼こそが、世界の平和と成長の推進力になっていきます。そのために、若い世代には外に出て視野を広げて欲しい。そう願って「飛び出せ若者」を合言葉に、種々の活動に取り組んでいます。

長きにわたりご支援賜わりましたことに感謝申し上げ、なお一層のご支援を何とぞよろしくお願い申し上げます。



独立行政法人国際協力機構
理事長

北岡 伸一

貴協会が設立50周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

貴協会とJICAは、アセアン諸国から次世代を担う青年たちを日本に招聘し、日本とアセアン諸国との友好と協力関係を深めることを目的とした「21世紀のための友情計画」の開始以来35年に亘り、国境を越えた次世代の若者たちの人材育成や関係構築に取り組んできました。本事業を通じて育まれた絆は、今も二国間の関係の素地となっていると確信しています。

昨今、日本の若者の内向き志向が指摘されていますが、一方で世界に飛び立ちチャレンジする若者がたくさんいることも事実です。未来の社会を担う若者が、諸外国での体験や協力活動を通じて相互に理解し合う機会を提供することは、世界の安定と平和、また日本のプレゼンス強化にとって引き続き重要と考えます。

その意味で、次世代リーダーの育成を主眼とした貴協会の活動に今後も期待しますますのご発展をお祈りいたします。

Greetings!

Speaking in behalf of JAAP, PHILFEJA and AJAFA-21, we would like to take this opportunity to congratulate the entire Development Association for Youthleaders community as you celebrate 50 years of fruitful and remarkable existence. You are all to be congratulated on your success and the opportunities you have enabled for so many youths in Japan and overseas in relation to your youth education promotion and international exchange programs.

We wish you all the best for the future and even greater success in the years to come!

Sincerely,



● AJAFA-21/The 31st ECM (2019.3.2/Philippines)

50年の歩み

VISION for NEXT50

設立50周年を迎えて、これまでの歩みを振り返り、
同時にこれから果たすべき役割を見つめ直す。

そうした意図から、2018年4月に「NEXT50委員会」を理事会の中に設置し、
鋭意検討を重ねて参りました。(委員長:隈丸優次理事)
2019年3月20日開催の平成30年度第4回理事会におきまして、
「NEXT50Vision」の最終答申が提出され受理されました。

Vision for NEXT50

各種の研修・交流プログラムを通じ、自主自立、日本の美德を身につけ
日本、アジア、世界の“Youth Leader”となりうる日本の若者を育成・支援する

Plan for NEXT50

1. 若者の人材育成事業(海外研修GET、リーダー育成P、国内企業人研修)

1年を通じた「リーダー育成プログラム (LEP)」の創設

2. 国際交流事業(さくらサイエンスプラン、AJAFA-21との関係強化)

さくらサイエンス事業を通して、AJAFA21 メンバーとの交流強化
会員企業の国際化への期待により多く応える

3. 社会啓発事業(若者力大賞、広報活動)

果敢にチャレンジしている若者を発掘、それを周りに「つなぐ」
広報の有効活用により、支援して頂く会員の増加をはかる

Key Word

つなぐ

三つの事業をつなぐ 会員企業とつなぐ 地方とつなぐ ASEANとつなぐ

前史 / PREHISTORY

1960 — 「新宿働く青年を友とする会」設立 (代表:堀添勝身 20才)

1963 — 「セイ・ユース伸びゆく青年の会」に改称

「朝飯会(現:丸の内朝飯会)*」発足

- ⇒ 現在も毎週木曜日の朝開催
- ⇒ 回を重ねて2,500回を超す長寿記録更新中



● 1966 「伸びゆく青年の会」

本史 / HISTORY

1969 — 「財団法人勤労青少年グループワーク協会」(労働省認可)設立

★(初代会長)藤井 丙午(八幡製鉄株副社長・当時)

★(設立者・専務理事)堀添 勝身(29歳)



藤井丙午初代会長

1970 — 働く若者のための法制定に尽力

⇒「勤労青少年福祉法(労働省)」が成立

1971 — サンサン運動(太陽野外活動)10年間の成果に
「労働大臣賞」受賞

1973 — 小学生のための野外活動
「サンサン運動黒潮キャンプ」実施



50年の歩み／本史

1975 — ★(2代会長)水上 達三(三井物産株会長・当時)

1979 — 設立10周年記念行事(バロック音楽の夕べ)開催

設立10周年記念「1円玉募金運動」開始

1980 — 「1円玉募金」でモルディブ共和国にコメ30トン援助



1983 — モルディブ援助の国際交流活動により「労働大臣賞」受賞

1984 — 外務省「21世紀のための友情計画(国際協力事業団)」スタート

⇒ 当協会は海外青年研修生の受け入れ協力を初年度から開始 (→ 2013で終了)



1984 — 設立15周年記念事業(シンポジウム・21世紀への人づくり)

1986 — 国際青年年(IYY)を記念して

「財團法人ユースワーカー能力開発協会」に改称

★(理事長)堀添 勝身

1988 — 海外青年研修生(ASEAN各国)のOB会組織「AJAFA-21*」発足

当初は6か国でスタート、現在はASEAN10か国プラス日本を代表してDAYが正式メンバーとして加盟(計11か国で構成)
⇒ 現在も交流活動を毎年継続して行っている



1988 — 「ECM(Executive Council Meeting)(AJAFA-21)*」発足

⇒ AJAFA-21の各団体の代表者会議として現在も毎年開催中

1989 — ★(3代会長)山本 登(慶應義塾大学名誉教授・当時)

外務省および労働省の共管団体に

設立20周年記念講演会(陳舜臣氏)開催



1990 — 「第1回ASEAN-日本ユースフォーラム*(AJAFA-21主催・シンガポール)」

⇒ AJAFA-21の主要行事のひとつ。

ASEAN 各国の若い世代が集い合うフォーラム。各国持ち回りで現在も開催中。



1991 — ★(4代会長)平岩外四(株東京電力会長・当時)

1994 — 「ハノイ工科大学(ベトナム)」に日本語センター設立



1994 — 設立25周年記念祝賀の集い開催



●ベトナム国民的女優 レイ・バンさん

1996 — 平岩会長特別講演(ハノイ工科大学)開催



50年の歩み／本史

1996 – ACT 21(ASIA COMMUNICATION TREND)発行

1998 – 「青年招聘事業活動協力協議会(CAC-21)」発足

JICA 青年招聘事業の協力団体による協議会が発足。

AJAF-21のカウンターパート的存在として活動。

右の写真は：(2009.3) 橋本聖子外務副大臣（当時）出席のもと開催された最後の総会。(※その後 2013.3 CAC-21 は解散)



1999 – 設立30周年記念祝賀の集い(日高義樹氏)開催



2000 – ★(5代会長)山口政治(元愛知県労働基準局長・当時)

2002 – 「日本ベトナム人材協力センター(JICA)」(ハノイ)開設
初代所長(国家公務員)に堀添理事長就任

「日中政経フォーラム(北京)」開催



2004 – 「青年研修事業20周年記念式典(東京)」開催

「ベトナムITスクラッシュ」設立
(経団連特別寄付金事業)



●ベトナム奖学金生



2004 – 「日中若手経営者研修交流事業(東京)」開催

設立35周年記念祝賀の集い(和田一夫氏)開催

2005 – 「若者自立塾」(厚生労働省)を栃木に開設、ニート対策事業に取組む



2006 – 「日中植林绿化事業(日中绿化交流基金)」に参画 ⇒ 2014まで



2007 – アジアへの国際協力活動に
対して外務大臣賞を受賞

「日中韓若手経
済人フォーラム
(北京)」開催



2007 – 「第19回ECM(AJAF-21)*」(インドネシア)

AJAF-21 (ASEAN ネットワーク)とのつながりを築いた2人。(右: 堀添勝身理事長・左: 有澤沙徒志評議員/当時)
ECMはのちの2015年2月に、海外青年研修30周年を記念して、初めて東京で開催された。



50年の歩み／本史

2008 — 若者自立支援活動に対して「厚生労働大臣賞」を受賞



2008 — 企業人のための「異業種交流研修会*」開始 ⇒ 現在も継続中



2009 — ★(6代会長)三村明夫(新日本製鐵株会長・当時)

設立40周年記念顕彰制度「若者力大賞*」を創設 ⇒ 毎年実施中



2009 — ASEAN各国(AJAF-A-21)と日本を中継した「TV会議*」を開始

JICAの東京本部と、各国JICA事務所を中継して行うTV会議。現在も年4回のペースで開催中。

「親子体験学習(新江ノ島水族館見学)*」
開始 ⇒ 現在も開催中



2010 — 三村会長記念講演(ベトナム・ハノイ工科大学)

創設者・堀添勝身氏逝去(2010.3.24享年70歳)

「お別れの会」(2010.5.13)



50年の歩み／本史

2012 — 財団法人から公益財団法人(内閣府所管)に移行(2012.4.1登記)
 「公益財団法人日本ユースリーダー協会」に改称
 (事務所移転: 東京都港区新橋1丁目→東京都港区赤坂1丁目へ)



★(評議員会会長)三村明夫
 (2013.11第19代日本商工会議所会頭)



★(代表理事・理事長)井上義郎
 (川崎重工業・元副社長)

2012 — 高校生・大学生のための「海外研修<GET>^{*}」開始 ⇒ 継続中



2013 — 若手企業人のための「若手研修会^{*}」開始
 ⇒ 継続中



2014 — 「JICA大学生フィールドスタディプログラム」(受託事業)実施

2015 — 「海外青年研修事業30周年記念シンポジウム」(DAY/JICA共催 外務省後援)



2016 — 「来日研修事業:さくらサイエンスプラン(JST)*」実施 ⇒ 継続中



最近の年間主要行事 2018-2019

2018

- 4月 「GET2018春 事後研修会」「第1回理事会」「NEXT50委員会」
- 5月 「H30年度評議員会」「第2回理事会」「アジアの会」「AJAFA-21/TV会議」
- 7月 「若手研修会」「GET2018夏事前研修会」
- 8月 「GET2018夏 海外研修(ミャンマー・ベトナム)」
- 9月 「GET2018夏 事後研修会」「AJAFA-21/TV会議」「アジアの会」
- 10月 「さくらサイエンスプラン(来日研修・中国高校生)」「親子体験学習」「異業種交流研修会」
- 11月 「第3回理事会」「会長サロン」「アジアの会」
 「さくらサイエンスプラン(来日研修・タイ高校生)」「AJAFA-21リーダーズフォーラム(RLF)(カンボジア)」
- 12月 「第10回若者力大賞受賞者発表」

2019

- 1月 「さくらサイエンスプラン(来日研修・ベトナム高校生)」
- 2月 「若者力大賞表彰式」「アジアの会」「GET2019春 事前研修会」
- 3月 「AJAFA-21各国代表者会議(ECM)(フィリピン)」「GET2019春 海外研修(タイ)」「第4回理事会」
- 4月 「GET2019春 事後研修会」
- 5月 「2019年度評議員会・理事会」「設立50周年記念の集い(2019.5.13)」

*本文中*印は現在も継続中

《資料編》歴代役員(敬称略)

〈財団法人勤労青少年グループ・ワーク協会〉設立

1969.7.1

名誉会長 東 龍太郎	日本赤十字社 社長 (元東京都知事)
会長 藤井 丙午(初代)	八幡製鉄 副社長
副会長 谷野 せつ	元労働省婦人少年局長
副会長 渡辺 勝美	東京渡辺油送 社長
専務理事 堀添 勝身	セイ・ユース伸びゆく青年の会 会長
理事 黒川 鴻	黒川建設 社長
理事 小坂徳三郎	信越化学工業 社長 (元運輸大臣)
理事 近藤 誠伍	関東医師製薬 社長
理事 寒河江善秋	文部省社会教育審議会 委員
理事 榊 春寿	東洋濾砂工業 会長
理事 佐々木秀一	佐々木硝子 社長
理事 白鳥 隆一	作詞家
理事 杉谷 武雄	三井信託銀行 会長
理事 横田 政次	新都市建設公社 副理事長
理事 山崎 康平	前東京都青少年対策部長
理事 佐伯 勇	近畿日本鉄道 社長
理事 萩原仙太郎	日鉄工業 社長
理事 広瀬 真一	日本通運 専務
監事 小田切瑞穂	奈良大学 教授
監事 吉川 政枝	東京母の会連合会 理事長
顧問 森戸 辰男	日本育英会 会長
顧問 大平 正芳	元通産大臣 (元内閣総理大臣)
顧問 永井 三郎	総理府青少年問題審議会 委員
顧問 深見吉之助	オリンピックセンター理事長

〈財団法人勤労青少年グループ・ワーク協会〉2代会長就任

1975.7.1

会長 水上 達三(2代)	理事 杉谷 武雄
副会長 谷野 せつ	理事 萩原仙太郎
副会長 岩切章太郎	理事 広瀬 真一
専務理事 堀添 勝身	理事 日高 邦雄
理事 黒川 鴻	理事 松本 勉
理事 近藤 誠伍	理事 河野 稔
理事 寒河江善秋	理事 武道 巨樹
理事 佐伯 勇	理事 坂本 幸男
理事 佐々木秀一	理事 山県 善民
理事 白鳥 隆一	理事 東野 公一

〈財団法人ユースワーカー能力開発協会〉3代会長就任

1989.7.1

会長 山本 登(3代)
副会長 山口 政治
副会長 武田 秋雄
理事長 堀添 勝身
常務理事 松尾 篤
理事 西沢 昭男
理事 淀野 隆之
理事 平岩 外四
理事 坪内 嘉雄
理事 志太 勤
理事 富田 博久
理事 平賀 孝

理事 齊藤英四郎
理事 濱野 紘史
理事 黒川 鴻
理事 河野 稔
理事 飯塚 善之
理事 中島 達郎
理事 高花 豊
理事 大畑 直行
理事 金森 正晃
理事 野村 銀市
監事 山崎 康平
監事 松村 正一

〈財団法人ユースワーカー能力開発協会〉4代会長就任

1991.7.1

会長 平岩 外四(4代)
副会長 山口 政治
副会長 荒木 正雄
理事長 堀添 勝身
常務理事 松尾 篤
理事 齊藤英四郎
理事 竹尾 信行
理事 志太 勤
理事 富田 博久
理事 平賀 孝
理事 大石 正
理事 黒川 鴻
理事 河野 稔

理事 中島 達郎
理事 高花 豊
理事 坪内 嘉雄
理事 野村 銀市
理事 飯塚 善之
理事 小林 久夫
理事 市川伊三夫
理事 大竹 美喜
理事 中川 順
理事 小野寺慶齊
理事 丑山 圭三
監事 山崎 康平
監事 松村 正一

〈財団法人ユースワーカー能力開発協会〉5代会長就任

2000.6.14

会長 山口 政治(5代)
副会長 丑山 圭三
副会長 小林 久夫
理事長 堀添 勝身
常務理事 松尾 篤
理事 齊藤英四郎
理事 中川 順
理事 大竹 美喜
理事 堀 章次
理事 松尾 邦彦
理事 市川伊三夫
理事 黒川 鴻

理事 飯塚 善之
理事 小野寺文榮
理事 大星 公二
理事 有馬 純幸
理事 中塚 廣重
理事 岩元 巍男
理事 和田 龍幸
理事 木全 ミツ
理事 高橋 成雄
理事 一色 孝義
監事 山崎 康平
監事 庄武 和敏

《資料編》歴代役員(敬称略)

〈財団法人ユースワーカー能力開発協会〉6代会長就任

2009.3.25

理事

会長	三村 明夫 (6代)	理事長	堀添 勝身
副会長	井上 義郎	常務理事	松尾 篤
副会長	中山 彰	常務理事	堀添 英人

中村 芳夫	市川伊三夫	小池 聰	鈴木 正俊
塙 章次	森田 健作	中尾 充	板谷 隆一
西尾 進路	福原 有一	吉田 勝昭	
松尾 邦彦	高橋 成雄	野村 和史	
大竹 美喜	堀 由紀子	有澤沙徒志	(23名)

評議員

関澤 秀哲	鈴木 隆敏	北條 友梨	塩中 一成
平 将明	多田 宏	鶴岡 潔	秋元 了典
志太 勤	渡辺 順彦	吉濱 健二	阪本 時彦
蒲谷 亮一	渋澤 健	海野 士郎	岩元 厳男
稲見 友之	市原 実	ローラ 節子	秀島 博規
城島 正光	金森 正晃	山元英一郎	榎本 竹伸
木全 ミツ	梅野 慶太	見海 顕治	加藤 弘次
溝田 勉	大下 勝巳	小倉 光雄	
相原戦太郎	釜堀 信雄	真野 正	
嵐 康一郎	中村 文咏	久世 博之	(37名)

監事

沖 明 中島 光博 (2名)

〈公益財団法人日本ユースリーダー協会〉公益法人移行

2012.4.1

評議員

評議員会会長	三村 明夫
評議員会副会長	西尾 進路
鈴木 正俊	稲見 友之
高橋 成雄	木全 ミツ
堀 由紀子	中西泰比古
高橋 成雄	鈴木 貴士
堀 由紀子	渋谷 英章
渡邊 順彦	広西 光一
木全 ミツ	林 直樹
中西泰比古	(13名)

理事

代表理事・理事長	井上 義郎	常務理事	吉田 勝昭
副理事長	中山 彰	常務理事	堀添 英人
野村 和史	秀島 博規	里吉 弘治	家本賢太郎
小池 聰	久世 博之	阪本 時彦	佐藤 孝治
中尾 充	塩中 一成	加藤 弘次	谷川 寛人
有澤沙徒志	杉野 庸介	下村 朱美	藤村 健
板谷 隆一	坂元 充幸	倉田 民子	(23名)

監事

沖 明 谷中 和也 (2名)

堀添 勝身さん



★表彰★

労働大臣賞2回・外務大臣賞・厚生労働大臣賞受賞

★著書★

「天風先生の心の学校」「天風先生の心の響き」

「ベトナムで生きてみた」「合気道(ベトナム語)」

「90分早起きすると必ず成功する」

★段位★

合気道七段・師範

1939 (S14) 宮崎県生まれ(1939.7.21生)

1958 (S33) 鹿児島ラサール高卒(剣道部設立・初代主将)

1960 (S35) 慶應義塾大学入学・慶應義塾合氣道部入部

合氣道本部道場(植芝盛平翁)入門・中村天風会入会

1962 (S37) 山本登教授(世界経済論)ゼミ入会

総務省「青年海外派遣・南半球1周の100日の旅」参加

1963 (S38) 「丸の内朝飯会」発足

「セイ・ユース伸びゆく青年の会」創設

1965 (S40) 慶應義塾大学(経済学部)卒業

1966 (S41) 世界青年会議(WAY)第6回総会出席

1968 (S43) 米国視察(米国国務省・日米文化人交流招待)～欧州視察

1969 (S44) 「(財)勤労青少年グループワーク協会(労働省主管)」設立

1986 (S61) 「(財)ユースワーカー能力開発協会(労働・厚生省共管)」理事長

1994 (H6) ベトナム「ハノイ工科大日本語センター」所長

2002 (H14) 「JICA・日本ベトナム人材協力センター」所長

ベトナム「合気道勇氣修道館」創設

2006 (H18) 「JICA・青年招へい事業活動協力協議会(CAC-21)」幹事長

2010 (H22) 3月逝去(享年70歳)

2012 (H24) 4月「公益財団法人日本ユースリーダー協会」へ改組

設立前史

『財団設立までの10年—グループワーク協会その前史—』

堀添 勝身

(ユースワーカー特別号寄稿・全文／昭和54年11月)

九州は「日向」の海岸で、少年時代の私はボーイスカウトの訓練を受け、そして高校時代には、「桜島」を臨む錦江湾にて 累々青年団活動に参加していた。

上京して大都会の人間関係の厳しさの現実にふれたとき、仲間づくりの青少年活動を開始したのは、自然の成り行きだったともいえるだろう。

世の中は安保闘争(第一次)にふき荒れる1960年。新宿の既製服縫製工場では、東北や九州から集団就職した十代の若者が、週1回、ともにラーメンを食べながらおしゃべりをする、通称「ラーメン会」が始まった。

実兄の経営するこの町工場でアルバイト学生であった私が、最初に提案した企画である。

やがて、この会も出入りのクリーニング屋さん、近所に住む歌手志望のギター青年とその輪が広がり、「新宿、働く青年を友とする会」と命名した。

2年後の1962年8月、皇太子御成婚記念事業、総理府青年海外派遣団の東京代表として、中南米、アジア、アフリカの青年リーダーと交流する南半球一周の旅に、「ラーメンの会」の代表が派遣される実績まで生まれた。

◇『セイユース』の誕生

1963年11月23日、ケネディ米大統領暗殺の悲報が、世界をかけめぐり、日本の青年の間にも、理想主義と暴力をめぐっての大きな波紋が広がっていった。

この時を契機として、「ラーメン会」も、働く青年のみでなく広く学生層の参加を含めた『セイユース伸びゆく青年の会』として、リーダー30名を中心、新しいスタートを切ったのである。

セイは青年・正義・誠意を表す日本語、また、“SAY-YOUTH”で〈若者よ、語り合おう〉の意味ともなる。「セイユース」のめざすもの

心から語り合う精神をとおして

- (1) 誇りうる自己形成
- (2) ハイライトの仲間づくり
- (3) 理想社会への逞しい行進

この年の12月12日、早朝6時半、新宿西口の寿司屋（江戸銀）に集って開いた第1回朝飯会のテーマが「21世紀を築こう」である。現在も7百回をこえて継続中である朝飯会活動が中核となり新宿の「セイユースの家」には、連日、学習会・レクリエーションのグループ活動が部屋いっぱいにくりひろげられた。

対外的にも、新潟大地震救済運動（1964年6月）で知事より感謝状。1964年10月より「歩け歩け運動」を提唱実施し、国民運動にまでもりあげていった。講演会活動「青年の見た世界」や、スポーツ大会もさかんとなり、会員1千名をこえる都内有数の青年団体に成長していったわけである。

そうしたことに寝食を忘れて、没頭した当時の自分をふりかえり、その活力の源泉は何んであったかを考えるとき、恩師、故中村天風先生の影響の大きさを思わずにはいられない。

心身一如の哲理を説かれる先生は、特に未来を担う青年に対して愛情をそゝがれ、積極的な真の人生建設と人の世のために役立つ自己を完成する重大さ、その方法を教え導かれた。

「セイユース3周年記念講演」では、90歳と思えぬ元気な姿で壇上に立たれ「正義と青年」と題して熱演さ

れたことは、15年を経た今もなお脳裏に鮮烈に甦ってくる。

こうした青年活動は、自分の隠れた能力を発見し、人間を学び、社会と自分の連帯を支えていく大きな役割をはたしていく。特に学歴や、財力や、社会的肉体的コンプレックスに悩んでいた青年が、集団の中で、仲間の励ましと友情で、潜在意識がクリーニングされ、自立する人間として立ち直っていく現実の成果を見るとき、こうしたグループ活動を広げていく使命感が燃えあがってくるのである。

◇青年団体の連合のよびかけ

1967年4月21日、東京郊外の自然公園読売ランドに、1万5千名の若者が参加し、「大東京に集う若人の祭典」が大々的に展開された。

当日は、その日の午前中、都知事交代を終えて、かけつけた東龍太郎氏も、激励の挨拶に立った。この大会は、「セイユース青年会」が呼びかけの中心となり、120の青年団体を結束して、東京都青年団体連合を創設。責任者として私が代表幹事を引き受けた。

この連合結成により、教育委員会からの助成金、勤労青少年の映画入場券、スキー・スケート場などに学生並みの割引制度が実現された。

やがて1969年、東京、大阪、京都、神戸、横浜、広島、北九州の七大都市の青年団体を結集し、「日本青年会議」をスタートさせ現在50都市の参加を得て、年大会には文部省から補助金も出されるまでに至った。

しかし、特定の政党、宗教団体に偏せず、青年活動をすゝめていこうとするには、財政面、社会的認知の面からも公益法人としての道が求められなければならなかった。

現にセイユース運営も、事務所の維持、通信費の増大から財政は困難をきわめ、ついにボランティア基金のみで支えられず、「セイユースの家」運営を断念する事態となる。だが連絡先を青年館などに移動しつつも、プログラムは盛んに展開されていった。

一方、新聞紙上では、集団就職で上京した永山少年が、連続射殺魔として世を戦慄させる事件が報じられ、青少年対策が真剣に論ぜられる状況も深まっていた。

特に職場の若者が、単に労働力のみとして見られる環境を変え、将来の世界を担う者として、人間的に成長をはかるような世話役的指導者、いわゆるユースワーカーの存在を配置する法制化を、私たちは主張し実現化を願っていた。

こうした環境の中から、財団法人の設立の準備が始まったのである。社会的には無力の青年たちの声に、藤井丙午氏（当時八幡製鉄副社長）が耳を傾けてくださり、理解ある先輩諸氏が賛同し、1968年3月、財団設立発起人会議が開かれたのである。

それから1年半後の1969年7月、労働省婦人少年局を窓口とする財団法人の許可があり、公益法人としてのスタートが切られた。

新宿の町工場の小さなグループから始まって約10年、一つの灯（ともしび）が燃え続け、社会的な役割が与えられたのである。

さらに翌1970年5月には、念願の勤労青少年福祉法が国会で通過し、わが国の青少年の福祉と教育に新しい方向が力強く打ち出される時代へとはいったのである。

（了）

（注）50周年記念特集の文中で、お名前や年号等に誤りがございましたらお詫び申し上げます。
事務局までご指摘賜りますようお願いいたします。

平成30年度(2018)下期活動報告

10

OCTOBER

1
Mon.

「来日研修さくらサイエンスプラン(中国・高校生)」実施(～7日)

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が2014年から行っている「さくらサイエンスプラン(日本・アジア青少年サイエンス交流事業)」。アジアの青少年が日本の科学技術を学び、さらに日本の同世代との交流を深めあう目的で行う来日研修に對して、JSTが費用の提供を行う研修支援プログラム。このプランを活用して今年度下期は、3か国からの来日研修の受け入れを実施し、その第1回目は10／1～7の7日間、中国・西安から15名の高校生と引率者3名の合計18名の研修を行いました。



●鹿島製鐵所見学



●品川女子学院で初めての部活動見学

17
Wed.

「平成30年度第5回運営幹事会」「第5回NEXT50委員会」「月次会計監査」実施

「NEXT50委員会」開催の後、引き続き、10月度の運営幹事会(業務執行理事会議)を17日(水)に開催いたしました。委員会報告の中で、第10回若者力大賞の最終候補者の報告が行われ、このあと最終審査委員会に諮られることになりました。

21
Sun.

「親子体験学習～新江ノ島水族館・海の生き物とのふれあい」実施

毎年恒例となった新江ノ島水族館での親子体験学習。今回は、7家族29名の方々にご参加いただき、バックヤードツアーなどを親子そろってご家族で楽しんでいただきました。

29
Mon.

「第30回異業種交流研修会」開催

企業の中堅幹部社員を対象に2008年から実施している「異業種交流研修会」。通算30回目の今回は、講師に元外務次官の藪中三十二氏をお迎えして芝パークホテルにおいて開催。会場は60名の参加者で満席。講演のテーマは、「世界はいまどうなってる？米・欧・中・ロシアと日本」。



11

NOVEMBER

2
Fri.

「平成30年度第3回理事会」開催

今年度第3回目の理事会を、11月2日(金)芝パークホテルにおきまして開催いたしました。今年度上半期の活動報告が行われ、後半は隈丸理事(元駐カンボジア大使)による講演が行われました。

9
Fri.

「第7回会長サロン」開催

法人会員代表者と、三村会長・西尾副会長を囲む懇話会「会長サロン」。今回は、14社の代表者の方がたにご出席いただき、芝パークホテルで開催いたしました。2019年7月に設立50周年を迎えることから、理事会の中に設置された「NEXT50委員会」が次へのステップを検討している中で、法人会員の皆様からご意見やご提案をヒヤリングさせていただきました。「つなぐ」という概念や、リーダー育成の年間プログラムのご提案など、貴重なご意見をいただきました。

15
Thu.

「第37回(AJAFA-21)TV会議」実施

日本とASEAN10か国を結ぶ交流団体「AJAFA-21」の、第37回TV会議が15日、各国JICA事務所を中継して開催されました。

20
Tue.

「平成30年度第6回運営幹事会」「第6回NEXT50委員会」「月次会計監査」実施

「第62回アジアの会(大阪)」開催

大阪で定期開催を続けています「アジアの会」。今回は、海外ツアーの危機管理を専門とする山田和生氏(株)マイチケットをお招きして、「海外スタディツアーや危機管理の裏話」と題してご講演をいただきました。

平成30年度(2018)下期活動報告

11
NOVEMBER23
Fri.

「来日研修さくらサイエンスプラン(タイ・高校生)」実施(~30日)

今年度第2回目の「さくらサイエンスプラン」は、タイ王国から15名の高校生が来日し、タイの友好団体F Y A AのMr. D E W会長自ら引率を務められて研修を行いました。タイ国4つの高校から選抜された高校生たちは、男子の制服が半ズボンとあって、寒い日本で震えながらの研修でした。



●東京経済大生とリニア見学

29
Thu.

「第24回AJAFA-21リーダーズフォーラム(カンボジア)」開催(~12/2)

毎年、開催国を持ち回りで実施している AJAFA-21 の若者の集い、「RLF (Regional Leaders Forum)」が11月29日~12月2日までの4日間、カンボジア・シェムリアップで開催されました。今回は隈丸理事に代表してご参加いただきました。

12
DECEMBER3
Mon.

「第10回若者力大賞受賞者」発表

第10回目となる今年度の若者力大賞受賞者が決定し、ホームページやプレス向けにリリースいたしました。

20
Thu.

「平成30年度第7回運営幹事会」「第7回NEXT50委員会」「月次会計監査」実施

12月度の運営幹事会では、次年度の主要日程（評議員会・理事会）を確認。終了後は1年を締めくくり、関係者も加わって忘年懇親会を行いました。

2019
1
JANUARY17
Thu.

「平成30年度第8回運営幹事会」「第8回NEXT50委員会」「月次会計監査」実施

1月度の運営幹事会では、第10回若者力大賞の進捗報告、2019年度事業及び予算計画の第1次案の検討などが行われました。

25
Fri.

「来日研修さくらサイエンスプラン(ベトナム・高校生)」実施(~2/1日)

今年度第3回目の「さくらサイエンスプラン」は、ベトナムから15名の高校生が来日し、友好団体VACYFのMs.Pham Thi Phuong Chi会長自ら引率されて8日間の研修を行いました。

2
FEBRUARY13
Wed.

「平成30年度第9回運営幹事会」「第9回NEXT50委員会」「月次会計監査」実施

19
Tue.

「第10回若者力大賞表彰式」開催

2009年度に協会設立40周年を記念して設立された表彰制度「若者力大賞」。その第10回目の表彰式が、2月19日(火)東京・六本木のハリウッドホールで開催されました。

21
Thu.

「第63回アジアの会(大阪)」開催

今回の講師には、当協会がJICAによる海外からの青年研修を受託していた当時、研修生たちのホームステイを長年にわたり引き受けさせていただきました柳村順氏をお招きしました。題して、「我が人生80年の総まとめ～恩返し～世のために、人のために」。

24
Sun.

「2019春GET(タイ・コース)／事前研修会」開催

2019春GET(タイ・コース)の事前研修会を24日(日)、東京・外苑前の日本青年館で開催。19名の参加者が4つのチームに分かれてミッションに取り組みました。

3
MARCH1
Fri.

「第31回AJAFA-21代表者会議(ECM)(フィリピン)」開催(~4日)

ASEANを結ぶ友好団体AJAFA-21では、1988年の発足以来、毎年、開催地を持ち回りで各国代表者会議(ECM: Executive Council Meeting)を開催。

第31回目は、3月1日~4日まで、フィリピン・マニラで開催され、当協会からは、村岡理事、隈丸理事、金沢理事(事務局長)の3人が参加。各國メンバーとの親交を深め、「GET」や「さくら」への関心が各國から寄せられたほか、協会設立50周年の祝意もいただきました。



表彰式の模様は、このあの報告書をご覧ください。

平成30年度(2018)下期活動報告

3
MARCH12
Tue.

「忘れない、3.11 VOL.8」開催(当協会後援)

東日本大震災被災地復興支援イベントが、「幸福の黄色いバンダナの会」の主催で、今年もパソナグループ本部で開催されました。当日は180名の参加者によって多くの義援金を贈ることができました。

14
Thu.

「平成30年度第10回運営幹事会」「最終NEXT50委員会」「月次会計監査」実施

今年度最後の運営幹事が14日(木)開催されました。20日に予定されている第4回理事会の議題内容(特に2019年度事業計画)の最終確認が行われました。また、理事会に先立ち開催された「NEXT50委員会」では、第4回理事会への答申を前に、答申案の最終確認を行いました。「月次会計監査」は、谷中監事のご協力をいただきて、今年度も毎月欠かさず実施いたしました。

20
Wed.

「平成30年度第4回理事会」開催

今年度第4回目の理事会を3月20日(水)、芝パークホテルにおいて開催いたしました。

審議議題は、(1)「NEXT50委員会」からの「NEXT50ビジョンの答申について」

(2) 2019年度事業計画(案)

(3) 2019年度収支予算計画(案)

それぞれについて審議が行われ、全会一致で承認されました。

※2019年度事業計画はホームページに掲載しています。どうぞご覧ください。

23
Sat.

「2019春GET(タイ・コース)／現地研修」実施(～30日)

通算で第20回目となる2019春GET(タイ・コース)の現地研修を、23日～30日までの8日間、タイ・バンコクで実施いたしました。今回は19名が参加。(大学生男8名・女5名、高校生男1名・女5名)事前研修でグループ別にミッションの検討を進めてきましたが、いよいよこれから本番を迎えるとあって、緊張しながらも羽田から飛び立ちました。



詳細は、
報告2をご覧ください。

報告

I

第10回若者力大賞表彰式

第10回「若者力大賞・表彰式」が、2月19日(火)「ハリウッド・ホール」(東京・六本木ヒルズ)において開催されました。今回は、60名(組)の候補者の推薦が寄せられ、池本修悟実行委員長(当協会理事)以下16名の委員による実行委員会において公募から第1次選考までが行われました。その中から、審査委員による最終審査を経て6組(7名)の受賞者を決定いたしました。



第10回若者力大賞表彰式

期 日 2019年2月19日(火)
会 場 ハリウッドホール(東京・六本木ヒルズ)
受 賞 者 別掲
審査委員 三村明夫審査委員長
西尾進路審査委員
山中祥弘審査委員
橋本久美子審査委員
蛭田史朗審査委員

内 容
16:30～17:00 第10回受賞者と審査委員との面談会
17:00～17:50 過去受賞者を交えた懇談会
18:00～ 開会(プロローグ)
18:10 お祝いメッセージ
(第1回大賞受賞者:MISIAさん)
18:15 表彰式・受賞者スピーチ
19:30 交流会
20:30 閉会



●三村明夫協会会长



●池本修悟実行委員長

報告

第10回若者力大賞表彰式 受賞者スピーチ

若者力大賞



秋本 可愛さん

1990年生/
株式会社
Join for Kaigo 代表

今回の賞は、これまで一緒に取り組んできた仲間たちみんなでいただけたものと、大変感激しています。

大学時代に介護の現場でアルバイトをしていた時に、その中にムードメーカーのような明るいおばあちゃんがいて、そのおばあちゃんは毎晩毎晩お祈りをしていました。

「早く迎えに来てほしい」「生きてると周りに迷惑をかけて申し訳ない」

この状況を見て、人生の終わりって、必ずしも幸せではないという現実を知りました。支えていた家族もみんな苦しんでいる現状を目撃しました。

そんな時に、3.11の大震災がありました。多くの人たちが復興支援のボランティアに取り組んでいました。私も何かしなくてはと思いながら、でも一方で、介護という問題への関心は、周りでは意外に低いことに気が付きました。私の中で課題意識を持つようになって、大学卒業と同時にこの活動を始めて6年になります。

私たちは、介護から人の可能性に挑むというミッションを掲げて、介護領域の課題を若い人の力で解決しようと事業展開を行っています。その中の一つとして、介護領域に志を持つ若い人たちのコミュニティ：「KAIGO LEADERS」を運営しています。20代、30代の若手の専門職はもちろん、介護という課題に問題意識を持っている様々な領域の人たちが集まって、一緒に学び、プロジェクトを起こしています。

いま、介護の職場の6割が人手不足といわれています。そんな状況の中で、専門職の人たちも、問題に気づいたりした人たちも疲れてしまって、本来の可能性をもっともっと發揮できる環境にしたいと取り組んでいます。例えば、介護の現場でもっと楽しく働きたい、そんな環境を作りたいと思った人たちが、1年間で離職ゼロを実現したり、普段、現場で働いている理学療法士が、もっと地域の中で、介護が必要となる前から、健康でいるうちに関わられたらと考えて「くらしの保健室」を始めたり、多くの仲間が様々なプロジェクトを起こしています。

いま、2025年に向けて、10,000人の介護リーダーを目指しています。介護はまだまだこれからです。

今回の受賞は、からの活動へのエールだと受け止めています。ありがとうございました。

ユースリーダー賞



阿部 恭子さん

1977年生/
NPO法人
World Open Heart
理事長

今回の受賞に大変感謝しています。

加害者側を助けるとは何事か、と叱りを受けることが多い、そんな活動をしています。皆さんは、今日、家族を送り出すとき、気をつけてと声をかけてると思います。交通事故にあわないよう、とか、学校でいじめにあわないように、とか、被害にあわないようにという気持ちだと思います。交通事故を起こさないように、という起こす心配は普段しない。

被害者がいえば加害者が必ずいて、そこに家族が存在します。

私は10年前に仙台で加害者家族の支援を始めました。その時、日本にはそういった組織どころか、情報すらない状態でした。そうした方達がどこでどんな生活をされてるか全くわからない。少し検索していくと重大事件の加害者の家族が、自殺されたとか、縁談が破談になったとかが若干出てきます。海外には、山のように情報はあります。なのに日本には何故なのか、という想いでやってきました。

いま、アジアにも活動を広げています。でも仙台の拠点は変えいません。

東北大震災が起きた時、私もスタッフたちも大きな被害を受けました。その時、加害者家族の方々から、たくさん励ましをいただきました。「阿部さんたちが生きててくれてよかった！」
つらい思いをした被災地から、これからも発信を続けていきたいと思っています。ぜひ、こういった家族の存在を、苦しんでいる家族がいることを、そして、こうした支援があるということを知っていたらと願っています。

ユースリーダー賞



市来 広一郎さん

1979年生/
NPO法人
atamista 代表理事

今回の賞を頂けたことは、これから地域をナントカしたい方々にも励みになるのではと、大変ありがとうございます。

僕が高校生のころ、熱海の街は、本当に数年で廃墟のようになっていくのを目のあたりにしてきました。だれだれの家がつぶれていなくなったとか、自殺したそうだとか、そんな時代でした。そしていまから12年前に熱海に戻ってきました。いま、その12年間を振り返ってみると大変なことがたくさんありました。最初は地域の人たちになかなか理解されなくて、受け入れられなかった。熱海という街は観光地なので、どうやって観光客を呼ぶか、皆さん必死でやってたけど、それは違うんじゃないかと。まずは、地元の人たちの暮らしが変わっていかないかな、地元の人たちの意識が変わっていかないかな、いけないんじゃないか。そこから始めました。

最初にショックだったのは、熱海には何もないという地元の人たちのネガティブな意識でした。

そこを変えたいと思って始めたのが、地元の人たち向けの体験ツアーでした。地元の人たちが地元のファンになり、サポーターになり、プレイヤーになって、そうやって関わっていく人を少しでも増やそうということから始めました。おかげでいま熱海は、V字回復だといわれるようになりました。降りていたシャッターもなくなって、若い人たちも増えてきています。でもナンとなくモヤモヤしてるのは、マイナスから回復はしてきたが、また昔の観光地に戻って、面白くなくなってくるんじゃないか、そんな心配をしています。あらためて地道に、自分たちが暮らす街をいかに良くしていくか、に取り組んでいきたいと思っています。

最近うれしいのは、熱海で起業しようという若い人たちが増えてきています。そして、それを地元の人たちが快く受け入れてくれるようになりました。僕らが10年前に自由にやれたのは、10歳ぐらい年上の人たちの後押しがあったから。同じように僕たちも次の世代のために、体を張って応援していきたいと思っています。

ユースリーダー賞

グリズデイル・
バリージョシュアさん

1981年生/
社会福祉法人江寿会 職員

ステージに上がったら、日本語全部忘れてしました。(笑)

私自身、障害を持っていますが、両親はいつもこう言ってました。「障害を持ってても、夢はあきらめないで。健常者と同じことができなくても、時間が倍かかっても、夢はあきらめないで」

私は日本が好きでカナダから何度も来ました。初めて日本に来た時に、浅草の駅で、まだエレベーターがない時で、駅員さんが6人で車イスを運んでくれて(ちょっと怖かったけど)感動しました。そのあと何度も日本に来て日本が好きになって、そして日本に住むようになった。3年前に日本国籍も得ました。これで、私の夢は叶いました。

でもそれだけでは満足できなくて、愛する日本のために何か役に立つことをしたい、と思うようになりました。

実は、障害者の94%の方たちは、どこかに出かける前にバリアフリー情報を探します。なければ半分以上はあきらめて他に行くというデータがあります。日本ではどうなのかなと心配して、何かできないかと思ってバリアフリーの情報を送ることを考えました。日本でもバリアフリーはできているのに、その情報がないとだめだと思ったからです。

最初のうちは、ここで役に立てるのかな、と不安でした。ある時、オーストラリアの方からメールが届きました。「私の娘は、グリズデイルさんと同じ障害を持っている。アニメが好きで、聖地である日本に行きたがっているけど、日本は無理かな?と思っていたら、あなたのホームページを見て勇気をもらいました。来年、日本に行かせることにしました」
やって良かったと、本当に思いました。

これからオリンピックもあるし、精一杯頑張ってやっていきたいと思っています。

第10回若者力大賞表彰式 受賞者スピーチ



加藤 篤さん

1972年生/
NPO法人
日本トイレ研究所
代表理事

よくぞ私を発見してくれてありがとうございます（笑）
トイレを良くして社会を良くしようという活動に取り組んでいます。
活動は主に3つ。
(1) 災害時のトイレ (2) 子供たちとトイレ (3) 街中のトイレのバリアフリー
その中から災害時のトイレの話を紹介します。
いまから5秒後、大きな地震が起きたら……（5秒）。
何にもなくてよかったです。もし起きていたら、たったいまから、もう水洗トイレは使えません。でも、排せつは止められない。この建物のトイレもあつという間に溢れます。
そうなれば感染症が広がる。トイレを我慢して水を飲まなくなって、弱っていって、いのちを落とす。これがトイレ問題。これが伝わらない。
東日本大震災の時、仮設診療所の前のトイレでずっと見ていました。ある時、車いすの方が来られて、でも階段のあるトイレなので手伝いましょうかと言ったら、介助している方が、自分でできなきゃいけないので結構、という。それから3か月ぐらいすぎて、その女性が四つん這いになって、どろどろの仮設トイレを這い上がっていったんです。この光景を誰も見ていない。だから問題なしとなる。
これを変えたい。

先進国、成熟社会……ウソですよね。被災から3か月たっても、そうさせている社会ってナンだろ？ トイレを改善していかなきゃと思っています。

皆さん、普段からトイレを話題にしてください。
そうすることからきっと変わっていくと思います。

障がい者支援施設こころみ学園
有限会社ココ・ファーム・ワイナリー

そんな父が私に遺してくれたのは、知的に遅っていても、働くことに関しては天下一品のこの子たちを残してくれたんだ、ということに気づいて、勇気をもらっています。引き継いでやっています。
そういう子たちが、一生懸命頑張って、おいしいワインをつくっています。その頑張りにこの賞をいただけたのかなと思っています。
ほんとうにありがとうございました。

2019春GET(タイコース)

2012年夏からスタートした海外研修「GET」は通算20回目を数え、

2019年3月23日(土)～30日(土)の8日間、タイ・バンコクで研修を実施いたしました。

今回は19名（大学生男8名・女5名、高校生男1名・女5名）が参加し、初めて顔を合わせるメンバー同士が4つのチームに分かれて、与えられた3つのミッションに取り組みました。

(第20回)2019春GET(タイ・コース)日程表

- 2019.2.24 事前研修会(日本青年館)
- 3.23 羽田空港ーバンコク国際空港(現地学生の出迎え)
- 3.24 オリエンテーションーホストファミリーのお迎えーホームステイ
- 3.25 ホームステイ(市街地見物等)ー現地学生との交流会
- 3.26 JICA事務所訪問ーFYAA訪問ー小学校授業準備
- 3.27 小学校での授業実施ー授業の振り返りー意識調査準備
- 3.28 高校生との交流・意識調査
- 3.29 世界遺産アユタヤ見学ーサンクスディナー
- 3.30 バンコク国際空港ー成田空港



●研修を手伝ってくれた現地の友人たち



●お互いの自己紹介から始まる事前研修会



●空港での大歓迎ぶり



●2人1組でホームステイを体験



●JICAバンコク事務所



●小学校の出迎えにビックリ！



●日本を好きになってくれたかな？



●現地語での質問にも挑戦

さくらサイエンスプラン

1 「中国(西安・高校生)来日研修」実施

*中国・西安から15名の高校生（男8名、女7名）と3名の引率者の計18名を迎えて、科学技術交流のプログラムを実施しました。

*中国国慶節の連休を利用して来日した高校生たちは、西安科学技術局より選ばれた優秀な学生たちで、7日間の研修プログラムをこなしました。



平成30年
10月1-7日

(左から) 鹿島製鐵所見学／日本科学未来館見学／品川女子学院で初めて課外活動を見た／修了式

2 「タイ(高校生)来日研修」実施

*タイの友好団体であるFYAA (The Friendship Youth Alumni Association of Thailand) の協力により、タイ王国から15名（男7名、女8名）の高校生が来日し、Mr.Thanapipat (Mr.DEW) (FYAA会長) 自らの引率のもと研修を行いました。

*タイ王国の4つの高校から選抜された高校生たちで、男子の制服が半ズボンとあって、寒い日本でふるえながらの研修でした。途中から、2017春GETでタイコースに参加した日本の学生も参加してくれました。



平成30年
11月
23-30日

(左から) リニア見学／新江ノ島水族館バックヤード見学／リバネス実験学習／修了式後、民族衣装で伝統舞踊

3 「ベトナム(高校生)来日研修」実施

*ベトナムの友好団体であるVACYF (Vietnam Alumni Club of Youth Friendship Programme) の協力により、ベトナム国から15名（男8名、女7名）の高校生が来日。友好団体のMs. Pham Thi Phuong Chi (VACYF会長) 自らが引率されて来日されました。

*今回の来日研修では、初めての試みとして、これまでGETに参加した日本の学生たちにも参加を呼びかけ、14名の学生が参加。研修の合間に交流を深めました。



平成31年
1月25日
-2月1日

(左から) 日本の学生と一緒にラーメン作り／太陽光発電所／江戸東京博物館／修了式

ASEANとの交流

ASEANとの友好団体:「AJAFA-21」との交流

かつて日本で研修(JICA青年研修)を受けた

ASEANからの研修生は、これまでに2万人を超し、

帰国後彼らはそれぞれの国で同窓会を組織して、お互いの
交流と、次に続く若者たちの育成に取り組んでいます。

当協会は、その横断的な連携組織「AJAFA-21」
(ASEAN-Japan Friendship Association for the
21st Century)の一員として参加、

ASEAN諸国との交流を毎年行っています。

「AJAFA-21」: 設立:
1988年。

ブルネイ・カンボジア・
ア・インドネシア・ラオス・マレーシア・
ミャンマー・フィリピン・シンガポール・
タイ・ベトナムの、ASEAN10ヶ国のOB会
の連携組織。そこに日本代表として当協
会が正式メンバーとして参加し、毎年交
流活動を行っています。



平成30年
11月29日
-12月2日

1 「24th RLF(Regional Leaders Forum)」(カンボジア)

AJAFA-21が発足して2年後の1990年、ASEAN各国の若者たちが集いあう初めてのユース・フォーラム（現在：RLF）が、シンガポールで開催され、その後毎年、各国持ち回りで開催を続けています。通算第24回目となる今年度は、11/29-12/2の4日間、カンボジア・シェムリアップで開催され、隈丸理事に代表して参加いただきました。

平成31年
3月1-4日

2 「31st ECM(Executive Council Meeting)」(フィリピン)

AJAFA-21の各代表者が集まって毎年開催される代表者会議（ECM）が、2019.3.1-4の4日間、フィリピン・マニラで行われました。当協会からは、村岡理事、隈丸理事、金沢理事（事務局長）が参加。各國メンバーとの親交を深め、各國からは「GET」や「さくら」への関心が寄せられたほか、協会設立50周年の祝意もいただきました。



3 「テレビ会議 (TV Conference)」 の実施

AJAFA-21は、2009年から参加各國のJICA施設を利用し、テレビ中継を通して、お互いの活動報告や情報交換を行っています。

- ① 第35回「テレビ会議」——(H30.5.24)
- ② 第36回「テレビ会議」——(H30.9.6)
- ③ 第37回「テレビ会議」——(H30.11.15)
- ④ 第38回「テレビ会議」——(2019.2.14)
(JICA本部+各國JICA現地事務所)